

海堡

kaihou

東京湾海堡ファンクラブニュース

No.26

題字は、明治39年10月1日陸軍大臣寺内正毅から外務大臣林董宛に提出した文書（外交史料館所蔵）より抜粋。  
紋様は、尾形光琳：『八橋蒔絵硯箱』東京国立博物館所蔵より。

## 目次

- 千葉県へ請願書提出、採択される
- 文化庁調査、平成24年度内にとりまとめ
- 富津岬に設置された説明板 高橋 悦子
- モン・サン・ミシェルと東京湾海堡 島崎 武雄
- 『カイホーブラザーズ』と『海堡しぐれ』
- 海堡よもやまばなし
- 第二海堡付近で不発弾見つかる
- 雑誌2誌に「秘境」として海堡が掲載される
- 海堡井2年ぶり復活
- クリーン作戦にご参加ください
- 海堡建設従事者ご子孫の訃報

## 東京湾海堡の保護と活用に関する請願書

下記事項を請願いたします。

## (1) 第一海堡の管理を千葉県が行っていただきたい。

第一海堡は県立富津公園に属し、南房総国定公園の最北端に位置しています。富津公園ならびに南房総国定公園を管轄する千葉県が第一海堡の管理を担当していただき、第一海堡の保護と一般公開に向けての整備をお願いいたします。また、不発弾の調査をしていただき、上陸を許可願います。

第一海堡は、文化庁が2003年から調査に着手している「近代遺跡（軍事に関する遺跡）地域別詳細調査」の“東京湾防衛砲台群”の一部として、調査対象となっています。文化庁に対し、調査結果報告を請求するとともに、千葉県の文化財として遺跡を保護し、積極的な活用をお願いいたします。

## (2) 第一海堡の護岸修復と一般公開をお願いしたい。

第一海堡の護岸は崩壊し始めています。とくに、2011年9月の「平成23年台風第15号」による高潮被害があり、これまで以上に崩壊が進んでおります。崩壊部分をそのまま放置する状態を続けていますと、護岸がすべて崩れ、第一海堡がなくなってしまう危険さもあります。

第一海堡は、明治時代に多くの人員と資金を投入し、高度な海洋建設技術を駆使して造られた島であり、国民の重要な資産です。

国民の資産を喪失しないためにも、護岸の修復をしていただくと同時に、海堡内部の整備を行い、国民に対して公開可能な状態にしていただくよう、千葉県から国に対し、要望することをお願いいたします。

## 千葉県へ請願書提出、採択される

平成24年(2012)2月24日、当ファンクラブは、千葉県知事・千葉県議会に対し、下記請願書「東京湾海堡の保護と活用に関する請願書」を提出いたしました。請願書の提出にあたっては、富津市観光協会長、富津市観光協会富津支部長、富津市商工会長、富津市内の18区長に請願内容を説明し、賛同をいただきました。

また、富津市に対し、本請願書の趣旨説明ならびに協力をお願いいたしました。

その結果、平成24年3月22日、千葉県議長より請願書の採択決定の通知がありましたことを報告いたします。

この千葉県の採択決定により、ようやく、「東京湾海堡の保護と活用」のスタートラインに立ったといえます。

(3) 県知事の現地視察をお願いしたい。

千葉県として、今後、第一海堡に対する取り組みを議論していただくために、千葉県知事に現地を視察していただきたく、お願い申し上げます。

2009年1月20日に千葉県議会観光立県推進議員連盟による第二海堡の視察が行われていますが、海堡の価値は、上陸することで確認できるものです。海上からの視察に留まらず、上陸による現地視察をお願いいたします。

以上

請願者代表

東京湾海堡ファンクラブ 会長 小坂一夫

請願賛同者

富津市観光協会長 島野勝

富津市観光協会 富津支部長 松本孝

富津市商工会長 渡辺茂

東町区長 高橋昌之

仲町区長 近藤輝夫

西町区長 岡本猛

富津浜町区長 松本孝

新町区長 大胡進

新井区長 田中富蔵

川名区長 森山祐輔

篠部区長 白石良造

大堀1区長 平野量大

大堀2区長 永田武憲

大堀5区長 鈴木英雄

青木区長 鹿島榮

西川区長 飛澤三郎

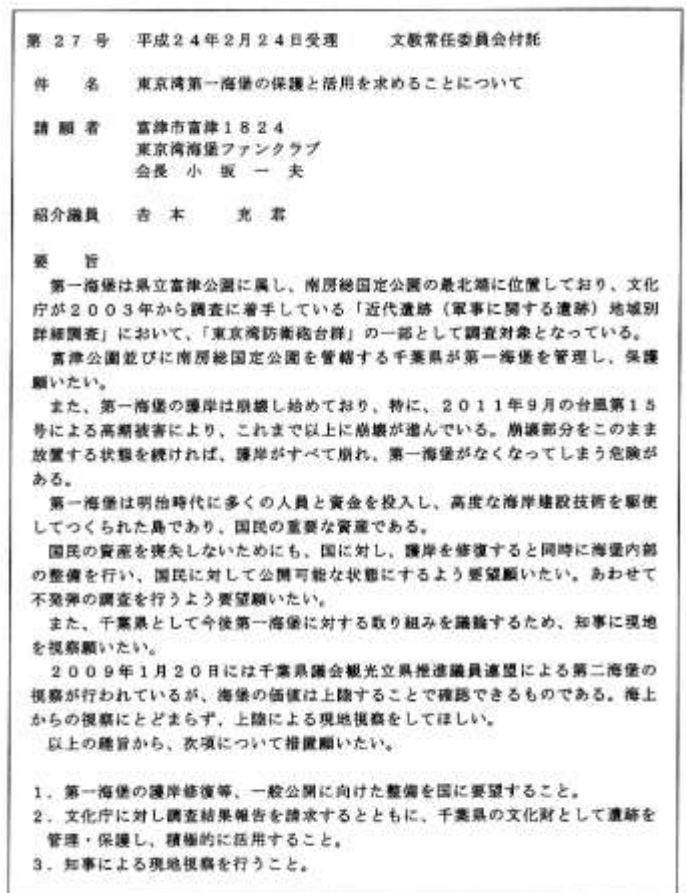
山王区長 萱野登

下飯野区長 稲村康夫

上飯野区長 牧野正昭

本郷区長 小澤忠文

二間塚区長 矢部功



## 文化庁調査、平成 24 年度内にとりまとめ

当ファンクラブ幹事が衆議院議員・中後淳氏を訪問、文化庁に対し、中後議員を通じて「近代遺跡調査報告書」の取りまとめ進捗状況を確認していただくことをお願いいたしました。

その結果、文化庁文化財部記念物課長から、「報告書は平成 24 年度内にとりまとめる予定」との下記回答がありました。

### (下記回答書抜粋)

千葉県富津岬にある海堡等の調査は、文化庁が現在実施している「近代遺跡調査」の一環の一つであり、同調査では、対象を政治・経済・社会・文化など 11 分野に区分しています。

海堡は、「政治」分野内の「軍事」関係の調査で、「東京湾要塞跡」の調査の一つとなっています。

御依頼の「軍事」分野の調査事項は、その他に、「函館要塞跡」、「土佐海軍航空隊跡」、「日吉台地下壕」、「松代地下壕」、「西南戦争遺跡」など 50 の事項を平成 24 年度内にとりまとめる予定です。詳細は別添の通りです。

本件につきまして、不明な点等がございましたら、ご説明いたします。



物件リストは全 5 ページあるため、掲載を省略します。

## 富津岬に設置された説明板

事務局 高橋悦子

すでに総会などで報告しているが、当ファンクラブの要請が実り、平成 22 年(2010)11 月 25 日、東京湾海堡の説明板が富津市教育委員会により設置された。当ファンクラブは、説明板設置に際し、文案の提案、一部費用負担(3 万円)をしている。(富津市に提出した文案は、会報 23 号に掲載)

設置場所は、富津岬の明治百年記念展望台脇で、展望台からは、第一海堡と第二海堡を臨むことができる。下記写真を撮影した日(2011.12.3)、久しぶりに眺めた第二海堡は、驚くほど平らな島になっていた。現在(2012.5.13)は南側に防波堤らしきものが確認される。第二海堡が最終的にどのような姿になるのか気がかりでならない。



東京湾海堡の説明板  
後方は明治百年記念展望台(2011.12.3 撮影)



第一海堡(左)と第二海堡(右)(2011.12.3 撮影)



朝日新聞(2011.1.30 付)

## モン・サン・ミシェルと東京湾海堡

地域開発学研究所 島崎 武雄

### 1. 日帰りバスツアー

この夏、パリへ滞在中、ホテルでガイドブック『地球の歩き方 パリ&近郊の町』<sup>1)</sup>をひもといていたら、たまたま、シティラマ社（観光会社）によるモン・サン・ミシェル

(Mont-Saint-Michel、“聖ミカエルの丘”という意味) 1日バスツアーの広告が出ていたので、早速、参加することとした。モン・サン・ミシェルはパリの西方、イギリス海峡に面したサン・マロ湾にある。バスは朝7時15分にパリを出発、途中で昼食をとり、12時半にモン・サン・ミシェルに到着。ツアー料金は165ユーロ（約1万7千円）であり、パリに帰着したのは午後10時であった。

モン・サン・ミシェルは1979年、“モン・サン・ミシェルとその湾”としてユネスコの世界遺産として登録され、今ではフランスで最も人気の高い観光地の一つとなっている。バスは日本人客で満席となっており、現地は世界各地からきた観光客で溢れていた。

### 2. モン・サン・ミシェルとは

モン・サン・ミシェルは、サン・マロ湾の小島に築かれた修道院である。島は花崗岩からなり、周囲は約900mで、高さは平均海面上約80mあり、湘南の江の島を小さくしたようなものである。サン・マロ湾の潮汐の干満の差は激しく15m以上もあり、かつては、満潮時には陸地から切り離され、島は海に浮かんでいたが、現在では地続きの道路が築かれており、島の入り口付近には観光客のバスや自動車と並んでいる。

708年、近隣のアブランシュの司教オベールの夢に大天使ミカエルが現れ、島の上に教会を建てるよう命令した。このお告げに従い、オベール司教は岩の上に小さな教会堂を建設した。これがモン・サン・ミシェルの起源であると伝えられている。966年には修道院が置かれ、11～12世紀にはロマネスク様式の修道院が建設された。その後、ゴシック様式の建物も建設され、“西洋の驚異”（ラ・メルヴェイユ）と呼ばれるような重厚な建築物が島の上に幾重にも構築され、今日に至っている。この間、14世紀の仏英の百年戦争の時には要塞として使われ、1793年のフランス革命時には監獄として利用されたこともある。<sup>2)</sup>

### 3. 東京湾海堡との違い

モン・サン・ミシェルは、一時、要塞や監獄として利用されたこともあるが、もともと宗教建築物である。これに対し、

東京湾海堡は軍事施設である。また、モン・サン・ミシェルは自然の小島の上に建設された重厚な宗教建築物の集合体であり、建築物に重要な価値がある。島は花崗岩質の堅固な岩でできていて支持力は充分であり、地震による崩壊の心配は全くない。一方、東京湾海堡は、海堡、すなわち、人工的に建設された島自体およびその建設技術と施工過程に大きな意義を有しており、建築物としては砲台や兵舎などの軍事施設が存在している。

### 4. 世界遺産として

モン・サン・ミ歇尔の場合、“西洋の驚異”と言われる重厚な宗教建築物の集合体として価値が認められて世界遺産として登録された。これに対し、東京湾海堡は性格が異なっており、品川台場や観音崎砲台などを含めた東京湾要塞群として捉えれば、国土防衛のための施設群として大きな意義が認められ、モン・サン・ミ歇尔と同様、世界遺産としての価値も認められよう。



写真-1 陸から見たモン・サン・ミ歇尔 (2011.8.8撮影)



写真-2 中庭の観光客たち (2011.8.8撮影)



写真-3 貴賓室の柱と天井 (2011.8.8撮影)

[参考文献]

- 1) 「地球の歩き方」編集室：『地球の歩き方 A07 パリ&近郊の町』、2011.6.10
- 2) フランス国立記念センター：『モン・サンミシエル』、2011

## 『カイホーブラザーズ』と『海堡しぐれ』

高橋由美幹事が作詞・作曲した歌2曲を紹介します。

高橋幹事は、海堡の記憶を後世に残したいとの思いで作詞・作曲されました。この活動は、朝日新聞(千葉版・2010.1.6付)で紹介されました。

### I. 『カイホーブラザーズ』

作詞・作曲：高橋由美、編曲：田中恵里

歌詞；

カイちゃんホッホ ホーちゃんヘイツ  
ぼくたちカイホーブラザーズ

1. 明治の時代に造られた 大砲置いた海の島
  2. 風の日 雨の日 晴れの日も ずっとと耐えてきたんだよ
  3. 富津の海にこれからも みんなと仲良くいたいんだ
- カイちゃんホッホ ホーちゃんヘイツ  
ぼくたちカイホーブラザーズ

### II. 『海堡しぐれ』

作詞・作曲：高橋由美、編曲：相葉由美

歌詞；

1. 雨の岬は鳥さえ飛ばぬ ゆけば砂浜ふとつきて  
たちどまる たちどまる けふる雨の中  
ぼつりぼつりと 人も通わぬ 海堡しぐれ
2. 海堡越しに影ひく船よ 役目果たして待つ国へ  
たちどまる たちどまる けふる雨の中  
放りだせない積荷重たや 海堡しぐれ
3. 潮の後れ毛吹かれてからむ 耳にやさしい波の音  
たちどまる たちどまる けふる雨の中  
涙の西空見れば日のさす 海堡しぐれ

東京湾海堡ファンクラブ・高橋由美さん  
歴史舞台を歌にし伝える



富津市の西に浮かぶ第一海堡と第二海堡。砲台付き人工島だ。日露戦争時に房総沖で挑発活動をしたロシア・ウラジストク艦隊の活動を抑制したと言われる一板の上の

響の時代の歴史遺産だ。当時の海洋土木技術の確かさ、歴史的意味合いを多くの人に知ってもらおうと活動している東京湾海堡ファンクラブの高橋由美さん(62)が「海堡しぐれ」「海堡ブラザーズ」のり曲を作った。

「響の碑は鳥さえず飛ばぬ行けば砂浜をくまきで……」  
「海ちゃんホッホ、堡ちゃんヘイッ、僕たち海堡ブラザーズ……」

時折、ファンクラブの仲間

のバックコーラスつきで披露している写真、中央着物姿が高橋さん。「生まれ育った富津の歴史と言えは海堡。海堡の記憶を後世に残したい」と、精いっぱい気持を込めて作り直した。

市役所に勤め、定年前に退職した。俳句、踊り、郷土史と趣味は多岐。作詞したあと「歌ってみて、ピアノで音を決め音符化した。つい演歌調になってしまいました」。

年とともに生まれ育った富津への思いが募る。「響、海堡、富士山、夕焼け。春には獅子舞があり、今の季節はのり曲。富津がどこよりもいい」

(富山修一)

朝日新聞(千葉版・2010.1.6付)

9月の「浦祭り」の日に開催されていた。相撲大会は漁協の主催で、富津地区だけでなく、近隣の若者も参加し、優勝すると化粧まわしや銀杯が贈られるなど、地域の一大娯楽として親しまれていた。

初代横綱「磯風」の本名は高橋繁松という。繁松は、明治29年(1896)生まれで、漁師をしながら東京湾第二海堡の建設工事に参加していた。下の写真を見ると、繁松の体格の良い姿がわかる。最も浦相撲が盛んだったとみられる大正13年(1924)に初代横綱に輝き、それを記念して化粧まわしが作られた。平成21年(2009)、この化粧まわしが繁松の孫・高橋久夫氏から富津公民館へ寄贈され、常設展示となった。

(参考資料：高橋久夫氏ヒアリング、千葉日報 2009.5.29付)



初代横綱「磯風」の土俵入り(高橋久夫氏所蔵)

## 海堡よもやまばなし

会長 小坂一夫

海堡にまつわる話を二つ紹介します。

### 1. わが家の悲しいお話

明治23年(1903)4月13日、海堡見学の帰りに見学者の船が遭難し、男女10人が水死した。その船に乗り合わせていた私の曾父母に当たる小坂之吉、之吉の長女・はつ(当時18歳)次女さつ(当時16歳)が行方不明となった。

小坂家は、長秀寺の境内に3人の供養のため、妙見堂を建立した。大正に入り、木更津裁判所より3人は死亡認定されている。

毎年、お盆には僧侶を乗せ船で海堡まで供養をしていた。今でも供養のお札を流している。

### 2. 浦相撲の横綱も海堡作業員をしていた

富津公民館の正面玄関から入って左側のガラスケースに浦相撲(草相撲大会)の初代横綱「磯風」の化粧まわしが常設展示されている。

富津地区の浦相撲は、明治末～昭和30年ごろ、毎年1月と

## 第二海堡付近で不発弾見つかる

第二海堡の護岸工事中に、2010年6月11日、さらに2011年9月30日、第二海堡近くで不発弾が見つかっている。このような状況を見ると、第一海堡の不発弾調査の早期実施の必要性が高まっているといえる。

「東京新聞」2011.2.24付



「千葉日報」2011.10.1付

## 雑誌2誌に「秘境」として海堡が掲載される

### (1)「週刊ポスト」

2012年4月6日号の「週刊ポスト」(小学館発行)が“秘境の旅10 東日本編”として、10ヶ所の秘境を紹介しているが、そのなかの一つに東京湾海堡が掲載された。制作会社から問い合わせがあり、当ファンクラブから写真提供を行った。



小学館「週刊ポスト」2012年4月6日号の記事 (p.20)

### (2)「知られざる日本 離島の謎」

榊風来堂発行の小冊子「知られざる日本 離島の謎」(定価550円)に、“首都防衛の拠点だった東京湾に浮かぶ海上廃墟”として東京湾第一海堡が掲載されている。当ファンクラブから写真を提供している。



榊風来堂「知られざる日本 離島の謎」2012.4.20発行

## 海堡井2年ぶり復活

富津市商工会サービス業部会は、地域の知名度向上や各店舗の相互発展を図るため、平成24年(2012)4月1日から6月30日まで「ふつつ海堡井まつり」を開催している。

「ふつつ海堡井まつり」は、4年前から始まったが、昨年は震災の影響で中止となり、2年ぶりの開催となった。

「海堡井」は、海堡のまわりで採れる魚介類を使った井で、市内10店舗がそれぞれのオリジナル井を提供している。

海堡周辺では、アサリ、ハマグリ、バカ貝、イチゴ貝、ミル貝、タイラ貝、マテ貝、赤貝、ニシ貝、トリ貝、サザエ、アワビ、ヒラメ、カレイ、スズキ、メバル、アナゴ、タチウオ、アジ、海苔など、貝類を中心に豊富な魚介類が採れる。

「ふつつ海堡井まつり」参加店は、下記10店舗。

- ①権兵衛、②ひろ寿司、③大漁寿司、④公園食堂 志のぞき
- ⑤お食事処 大定、⑥中華料理 雲龍、⑦味のかん七
- ⑧いそね寿司、⑨いとや旅館、⑩さとみ寿司

(参考資料：富津市商工会提供資料)



「房総新聞」平成24年(2012)4月6日付

## クリーン作戦にご参加ください

当ファンクラブは、毎月1回、富津公民館に午前10時に集  
合し、富津海岸海浜植物群生地での清掃活動（クリーン作戦）  
を行っています。

5月以降は5月20日、6月17日、9月16日、10月21日、  
11月18日、12月16日、1月20日、2月17日、3月17日に  
行います。(7月・8月は休み) 連絡先:小坂 090-6936-9786  
皆様の参加をお待ちしております。



第1回(2010.1.7)クリーン作戦



第2回(2010.2.21)クリーン作戦

### 富津海岸の潮干狩

2012年3月10日(土)～9月2日(日)

汐見表を確認の上、お出かけください。

汐見表は、インターネットで見ることができます。  
<http://www.jf-futtsu.com/>

### ～ 会費納入のお願い ～

今回、振替用紙を同封いたしました。

2011年度の会費のご入金をお願い申し上げます。

すでにご入金いただいているにも関わらず、振替用紙  
が入ってございました際は、ご容赦願います。

## 海堡建設従事者ご子孫の訃報

### ◎小坂文予(おさか じょうよ)氏

小坂文予氏は、東京湾海堡建設の功労者・西田明則のひ孫  
(西田明則の長女・いゑの孫)にあたります。小坂家が西田  
明則の写真を保管していたこと、明則の業績について文予氏  
の父・捐二が私家本で記録していたため、東京湾海堡建設解  
明の貴重な資料を文予氏より提供していただきました。

2011年11月23日、小坂文予氏は、心不全のため逝去され  
ました。告別式が11月30日午前、東京都品川区西五反田の  
桐ヶ谷斎場にて執り行われ、事務局が当ファンクラブを代表  
して参列いたしました。

小坂文予氏は、東京工業大学で火山学を専門に研究されて  
いました。葬儀には、火山学会の研究者、海上保安庁関係者  
など、大勢の方が参列されていました。

### ◎牛尾保子(うしお やすこ)氏

牛尾保子氏は、陸軍中尉・高橋真八のご子孫です。2011年  
3月9日に逝去されました。

高橋真八は、明治43年(1910)～大正3年(1914)までの4年  
間、陸軍大尉として第二海堡および第三海堡建設の実質的な  
責任者です。(参考文献:国土交通省関東地方整備局東京湾口航路  
事務所『東京湾第三海堡建設史』2005.3、p.427)

牛尾保子氏は、父・真八の日記を軸に『戦争はいかん 平  
和を希った軍人高橋真八』を私家本として編纂されました。  
『東京湾第三海堡建設史』の編集時には、西田明則引退後の  
海堡建設の貴重な資料を提供いただきました。

### ～ 総会のお知らせ ～

6月23日(土) 13:00より

富津埋立資料館(富津公民館に隣接)にて、

第11回総会を開催いたします。

総会終了後、島崎武雄会員による「モン・サン・  
ミシエルと東京湾海堡」の講演会を予定しており  
ます。 詳細は、後日送付いたします。

### 「海堡」 *kaihou* No.26

—東京湾海堡ファンクラブニュース— 第26号

東京湾海堡ファンクラブ 2012年5月15日発行